

『楽園の喪失』試論—「楽園の東の門」に関する一考察—

上滝 圭介

ジョン・ミルトン（1608 - 74年）は、創世記の天地創造神話に取材した『楽園の喪失』（1667年）の舞台として、天と地、地獄とカオスを設定した。そして、それらの世界をさまざまなgateで接続することによって、サタンやガブリエル、天使や墮天使たち登場人物に空、宇宙、カオスといった亜空間を移動させてみせた。一方で、大地の中心に位置するエデンの園にも「楽園の東の門」（4巻542行）を配置した。サタンの誘惑に屈して墮落したアダムとイブは、しかし、この後戻りのできないgateを通って、足取りおもく、荒野へと下っていくのみであった。

本発表では、このような各世界を結ぶgateの用法を概観したうえで、とくに、アダムとイブの追放の象徴でもある「楽園の東の門」の性質を分析する。